

平成 28 年度 学校図書館県外視察研修会 専門委員会レポート

日本大学三島高等学校・中学校 永田 泰大

<一日目：11月24日（木）>



この日はみぞれ混じりの冷たい雨が降るあいにくの天候にもかかわらず、県内各地より図書担当の教員・司書有志が集まりました。初日の訪問校は東京都千代田区にある私立大妻女子中学・高等学校。「恥を知れ」を校訓に 1908 年の創立以来日本の女子教育を牽引してきた名門女子高です。

校舎に入ると、そこがロビーとなっており、その先はいきなり図書室となっています。大妻女子を訪ねた来校者は例外なく図書室の様子を目の当たりにすることになり、これは「図書室を学校の顔とする」という学校側の強い意志の表れといえます。



大妻女子が図書室を“学校の顔”と胸を張って位置づけるその自身の源はどこにあるのか。その答えは、図書室に面した廊下にあります。廊下は全面が掲示板となっており、そこには新着図書のすべての簡単な紹介文と背表紙のコピーが掲示してあります。「お知らせ」の形で文字情報のみで紹介する学校が多い中、背表紙だけとはいえビジュアルで訴える力は大きいです。コピーは白黒ですが、カラーマーカーを上手に使い人目を引くよう工夫されています。



大妻女子図書室の名物となっているのが、お手製の書籍紹介カード（POP）です。その量とそしてクオリティの高さは群を抜いています。大妻女子には図書室専属の司書教諭が常駐しており、熱心な図書指導を続けていらっしゃいます。新着図書の紹介もPOPもすべてこの司書教諭の方の手作りで、是非多くの生徒に図書室に足を運んでもらいたいという気持ちがうかがわれます。

<一日目：11月25日（金）>



翌22日は、同じ都内、渋谷区にある私立広尾学園中学校・高等学校をお邪魔しました。前身は1918年（大正7年）創立の順心女子学園で、女子高時代を含めるとこちらももうすぐ創立100年を迎える伝統校です。女子高時代は一時期経営難に陥るも、その後学校経営を一新し見事にV字回復を果たしたことで注目を集めました。

広尾学園はICT（情報通信技術）教育分野で最前線をいく先進校として知られており、全国から多くの視察者を集めることで有名です。この日は、県内私学の教員で図書館業務の担当ではない方も視察に合流したほか、午後からは大坂の私学関係者もマイクロバスをチャーターして来校していました。



広尾学園は前身の女子高時代の1973年に全国初の「海外帰国子女教育研究協力指定校」に指定されるなど帰国子女の受け入れに熱心な学校として知られています。2006年には文科省より「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール」の指定を、さらに翌2007年より中等部にインターナショナルコースを設置するなど英語教育の先駆的存在です。同じ校舎でありながらインターナショナルコースのフロアは、まるで外国の学校のような雰囲気です。



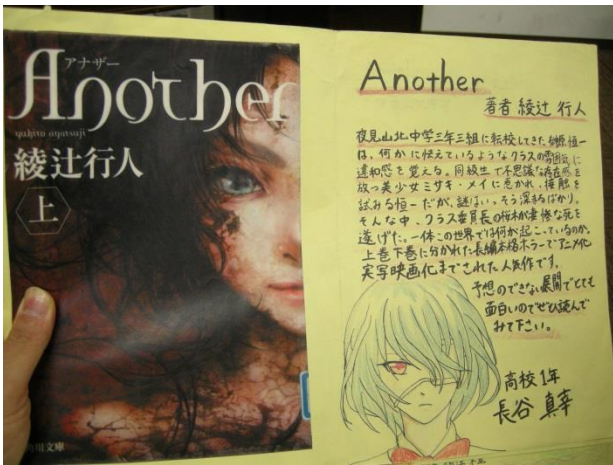
広尾学園のもう一つの大きな目玉となっているのが、理系教育の新境地を開拓し続ける医進サイエンスコースです。理系分野の第一線で活躍する医者・エンジニア育成を目指す当コースでは大学の研究室顔負けの実験施設や器具が揃えられており、そのレベルの高さに目を見張ります。都心に立地する地の利を活かし、著名人を招いての出張講義や都内各大学の研究室を訪ねる訪問見学講座といったキャリア教育にも熱心です。



こうした教育先進校のイメージが強い広尾学園ですが、実は昔ながらのマンパワー、アナログ教育の典型ともいべき図書教育にも力を入れています。広尾学園は都心のオフィス街という立地条件ゆえ敷地は広いとはいえません。図書室も地下に置かれていますが、黒と白を基調とする空間はモダンな印象を与えます。



地下の配置のため外の風景とは無縁の図書室ですが、不思議と閉塞感を感じさせません。実は、広尾学園の図書室には廊下と図書室とを仕切る壁がないのです。図書室関係者でなくとも「書籍の安全管理は大丈夫なのか」と心配になるところです。話を伺うと、「書籍の紛失も無くは無いのもの、当初覚悟していた件数よりもはるかに少ない」とのこと。“どうすれば生徒が図書室の中に入ってくれるだろう”と頭を悩ませる図書室担当者は多いと思いますが、そもそも壁を取り払えば図書室の内も外もなくなるではないかという発想の転換は衝撃的でした。



中央の通路を挟んで左手が書架、右手は自習室を兼ねた閲覧室となっています。閲覧室は静謐さを保つためにガラス張りで仕切られてはいますが、書架の部分は全くのオープン。文字どおり開かれた図書室を体現しています。



こうした斬新なスタイルとは対照的に、図書室の運営は昔ながらの図書委員主体で行われています。POPの作成も全て図書委員の手作りですし、ビブリオバトル等のイベントを通じて他校との交流も盛んです。少ない人員を補うため、広尾学園では、図書委員だった卒業生を学生アルバイトとして採用しています。卒業後も後輩達の図書指導にあたる先輩の姿は、きっと在校生にとっては格好よく頼もしく見えるに違いありません。こうしたところにも、図書を通じて人間教育を実践しようとする広尾学園図書室の姿勢がよく表れています。

今回訪問させて頂いた二校に共通するのは、図書室の運営に携わるスタッフの並々な熱意です。どれだけ設備が整っているが、最終的にはスタッフと生徒の気持ちがあるという当たり前の事実を再認識できた点で、大変有意義な研修でした。